『明治字典』における朝鮮語子音‘ㄴ’の片仮名転写について

『明治字典』에 보이는 朝鮮語 子音‘ㄴ’의 片仮名 転写에 대하여

佐野　三枝子

要旨

『明治字典』은 19世紀 末葉에 刊行된 字典이다. 各 漢字의 音과 訓을 朝鮮語로 달고 가타카나로 읽는 方法을 表記한 것이다. 『明治字典』에서는 몇 가지 近代 日本 資料와 같이 單語 첫 音節의 ‘ㄴ’을 ‘d、t’로 表記한 例가 보인다. 이것은 高母音 앞에 있어서는 朝鮮語 鼻音 ‘ㄴ’의 條件的 變異音 [^{d}n] 이 반영된 것, 非高母音 앞에 있어서는 日本語의 ‘d’ 自體가 鼻音性을 同伴한 [^{n}d] 이었다는 점에 原因이 있다고 할 수 있다.

1. はじめに

『明治字典』は19世紀末葉に刊行された字典である。各漢字の音訓を英語と北京語と朝鮮語でも記しており、朝鮮語の場合は、ハングルに片仮名で読み方を振っている。『明治字典』と同時期に刊行され、片仮名でハングルの読み方を振った資料と、19世紀中葉以前の、漢字と仮名のみで朝鮮語を書き留めた資料を通して近代朝鮮語の様相を考察した[1)]際に、全ての資料に単語第一音節の‘ㄴ’を‘d、t、z’で転写している例が見られたが、『明治字典』にも単語第一音節の‘ㄴ’を‘d、t’で転写している例が確認できる。本稿は、子音‘ㄴ’の片仮名転写について検討し、単語第一音節の‘ㄴ’の転写の様相を考察するものである[2)]。使用する資料は大阪府立中央図書館所蔵『明治字典』全十九巻である。

2.『明治字典』について

2.1 『明治字典』の成立

『明治字典』は、1885年（明治18）5月から1888年（明治21）7月まで三年ニヶ月に亙って東京の大成館から刊行された[3)]。首巻と巻之一から巻之十八まで、全十九巻、1485ページに及ぶ。当初の予定では、全三十九巻であったが、第18巻の四画で中断し、第19巻、五画の「玄」以後は刊行されなかった。『明治字典』に収録された第18巻四画までの部首と刊行年は次の通

りである。刊行年及び編集者は偶数巻の奥付に記している。

目次

巻之一
一部 丨部 丶部 丿部
乙部 亅部 二部 亠部
巻之二（1885年5月）
人部
巻之三
儿部 入部 八部 冂部
冖部 冫部 几部 凵部
刀部 力部 勹部 匕部
匚部 匸部 十部 卜部
卩部 厂部 厶部 又部
巻之四（1886年12月）
口部 囗部
巻之五
土部 士部 久部 大部
巻之六（1887年4月）
女部 子部 宀部
巻之七
寸部 小部 尢部 尸部
屮部 山部 巛部
巻之八（1887年6月）
工部 己部 巾部 干部
幺部 广部 廴部 廾部
弋部 弓部
巻之九
彐部 彡部 彳部 心部
巻之十（1887年9月）
戈部 戸部 手部
巻之十一
支部 攴部 文部 斗部
斤部 方部 无部
巻之十二（1887年9月）
日部 曰部 月部
巻之十三
木部
巻之十四（1887年11月）
欠部 止部 歹部
巻之十五
殳部 毋部 比部 毛部
氏部 气部
巻之十六（1888年3月印刷）
水部
巻之十七
火部 爪部 父部 爻部
爿部 片部
巻之十八（1888年7月）
牙部 牛部 犬部

編集者は当時の文部省の現職官吏及び東京大学の国学教授が中心で、序文は明治維新の中枢的人物が書いている。題字、序文を書いた人物及び年月、校閲者、編集者は次の通りである。

題字　熾仁　親王　明治17年12月

序文　伯爵大木喬任 明治18年1月、従三位伯爵柳原前光 明治17年12月、正三位侯爵西園寺公望 明治18年2月、西邨茂樹 東京学士院会員 明治17年12月、Jhon A. Bingham 米国公使 Jan. 21st, 1885、辻新次 明治18年1月、小杉榲邨 東京大学教授 明治17年12月、F. Brinkley Dec. 1st, 1884、小野湖山 明治17年 天長節後一日、重野安繹 編修副長官 東京大学教授 明治18年1月下浣、猪野中行 明治17年12月、李樹廷 大朝鮮開国四百九十三年甲申仲冬之月序

総閲　重野安繹、校閲 中村正直

校閲　国訓 小中村清矩、英語 ヱフ，ブリンクレー、北京語 張磁昉

同輯　猪野中行、国訓 小杉榲邨、英語 邨松守義（1887. 9から鈴木唯一）、北京語 磯部栄太郎、韓音訓 李樹廷、片岡茂

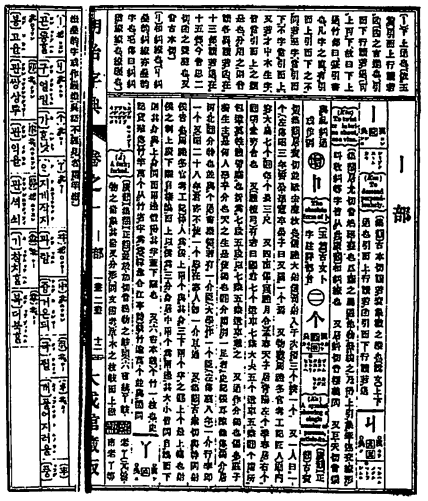
朝鮮語の音訓を担当した李樹廷については鄭光（1996）に詳しい。1882年に朴泳孝の非公式随員として来日し、津田仙と交わり、安川亀に洗礼を受けて、韓国人としては日本で初めて

の信者になった。聖書の飜訳など、韓国における新教受容の橋渡しの役割を果たす一方、東京外国語学校で朝鮮語を教えた[4]が、甲申政変後、本国政府の召還により、1886年５月28日に帰国し、その後、処刑された。片岡茂については第18巻奥付に東京府士族とある他は詳しいことはわからない。また、編集方針、方法等及び李樹廷の帰国後の編集作業等々については記述がない。

字典編撰の動機については英文の序文に記述がある。中国語の学習に適した信頼できる辞典がなかったこと、西洋科学の輸入増大に伴う新造語作製に正確な漢字の知識が必要であること、四海万民の交流の為には言語の障壁を超えなければならず、それには新しい字典が必要であることの三つである。

２．２.『明治字典』の形式について

『明治字典』は『康熙字典』に基づき、『佩文韻府』の解釈を加味したものである。各漢字に片仮名で日本音の漢音と呉音を、その下に日本語の訓を載せ、その次に、英語で発音と意味を書いている。そして、漢文で解説を施している。各部首の末尾にその部首の漢字をまとめ、朝鮮語の音と訓をハングルで付し、その右側に片仮名で発音を振っている。また、各漢字の下に「北」の字を書き、圏点で四声を表わし、その下に北京語の発音を片仮名で記録している。なお、片仮名の表記は旧仮名遣いによるものである。



巻之一 丨部12張表と同裏の朝鮮語の音訓部分

３.朝鮮語の子音‘ㄴ’の片仮名転写について

単語第一音節の‘ㄴ’を‘d、t’で転写した例を検討するにあたり、まず、１巻から18巻までの、初声‘ㄴ’とそれに続く母音の片仮名転写の様相を整理する。ただし、全ての用例は附録に提示する。

３．１.初声‘ㄴ’とそれに続く母音の片仮名転写の様相

‘나’は‘ナ na、ラ ra、ナア naa、ラア raa、ナー na-、ナアー naa-、ダア daa、ダー da-、ドー do-、タ ta、タア taa’と転写し、‘ㄴ’は‘ナ na、ナア naa、ナー na-、ノー no-、タ taa’と転写した。‘냐’は‘ニヤ niya’と転写したが、１例のみである。‘너’は‘ノヲ nowo、ノヲウ nowou、ヌヲ nuwo、ノ no、ロ ro、ノー no-、ロー ro-、ネウ neu、イ i、ド do、

ドー do-、トー to-’と転写し、‘녀’は‘ニヤウ niyau、ニヨ niyo、ニヨウ niyou、ニヨー niyo-、エウ eu、イヤウ iyau、イヨ iyo、イヨー iyo-’と転写した。‘노’は‘ノ no、ノウ nou、ノー no-、ラウ rau、ト to’と転写し、‘뇨’は１例のみで‘ニヨー niyo-’と転写している。‘누’は‘ヌ nu、ヌウ nuu、ヌー nu-、ヅ du、ヅー du-、ツツー tutu-、シュー syu-’と転写し、‘뉴’は‘ニヨー niyo-、イユー iyu-’と転写した。‘느’は‘ヌ nu、ヌウ nuu、ノ no、ヅ du、ヅウ duu、ツツウ tutuu、ダ da’と、‘니’は‘ニ ni、リ ri、イ i、ニー ni-、リー ri-、イー i-’と転写している。

‘내’は‘ナイ nai、ライ rai、ナアイ naai、ナヤ naya’と‘너’は‘ナイ nai、ライ rai、タイ tai、ナ na’と転写した。‘뉘’は‘ヌイ nui、ヌーイ nu-i、ヅー du-’と転写し、‘뇌’は‘ノイ noi’と転写した。‘네’は‘ノイ noi、ロイ roi、ネ ne’と、‘네’は‘ニヱー niwe-、ネー ne-’と転写している。

‘ㄴ’とそれに続く母音の片仮名転写の様相を調べると、簡単な綴りの間違いがあること、一貫性がないことがわかる。

まず、＊１～＊７は、朝鮮語またはそれに対応する片仮名転写の単純な誤記である。たとえば、‘ツ、ソ、ラ、ワ、ヌ、ヲ’等、類似している字形を誤った例であるが、＊１‘湳 nanunwari（三32オ）’の‘wa ワ’と＊８、＊９‘凉셔늘 siyauworu（三32オ）晷ㅋ늘 kuuworu（十二31オ）’の‘wo ヲ’は、それぞれ、朝鮮語‘소리、셔늘、ㅋ늘’から判断して、‘ソ、ヌ’の誤りである。＊２‘幃향낭 hi nagu（八31ウ）’は‘향’に対する片仮名表記が一部なく、＊３‘咢돌날 noruraru（四81ウ）’の‘ノル’は‘トル’を、＊６‘夷동녁되 toguniyokuito（五70オ）’の‘イト’は‘トイ’を、そして、＊５‘杉잇자나무 ituka-na-mu-（十三110オ）’は朝鮮語‘ㄱ’を‘ㅈ’と誤ったものである。また、＊４‘囿나리동산 na-ra-togusan（四94オ）’も朝鮮語と片仮名転写が一致しておらず、＊７‘夕 tiyo-niyoku 적녁（五55ウ）’は‘져녁’の文字を見誤ったものであると思われる。

次に、転写方法である。まず、母音の長音表記は、同じ母音または別の母音を重ねるものと、長音符号‘ー’を用いるものに分けられる。たとえば、‘ㅏ、ㆍ’の場合は‘アア aa’と‘アー a-’である。‘나’では、同じ母音を重ねる方法、すなわち‘ナア naa’という表記は８～10巻、16～18巻に58例見られ、長音符号‘ー’を用いる方法、すなわち‘ナー na-’という表記は、２～４巻、６～９巻、12～14巻に80例見られる。また、‘ナアー naa-’という表記も４巻、10巻、13巻に７例見られる。ところで、‘나’に対して、‘余、儂（２巻）、吾（４巻）、我（12巻）’は‘ナ na、ナアー naa-、ナア naa’と三通りに転写している。‘ㄴ’では、‘ナア naa’は10巻、16～18巻に、‘ナー na-’は３巻、５～６巻、８巻に、共に８例見られる。

‘너’では、‘ノヲ nowo、ノヲウ nowou’という表記は２巻のみにそれぞれ５例と１例あり、‘ノー no ー’という表記は５～６巻、16巻に15例ある。‘노’では‘ノウ nou’が２巻、４巻、６～７巻、９巻、11巻、13巻、18巻に18例、‘ノー no-’が２～４巻、６巻、８巻、11巻に９

例見られる。‘너’に用いられた‘ノヲ（ウ）nowo（u）’という表記はないが、これは、‘너’と‘노’の発音の違いを表わすために使い分けたのであろう。‘녀’では‘ニヤウ niyau’が２～３巻、８巻に６例あり、‘ニヨー niyo-’が３巻、６巻、８～10巻、13巻、18巻に12例見られる。また、‘n’を脱落させた‘イヨー iyo-’が10巻、16～17巻に５例見られる。‘뇨’は‘ニヨー niyo-’という表記が６巻、16巻に１例ずつ見られる。

‘누’では‘ヌー’という表記が４巻、６巻、10巻、16～18巻に14例、‘ヌウ’という表記が２～３巻に７例見られる。‘뉴’は‘ヌウ’が13巻に１例あり、他は‘ヅウ、ツツウ’が12巻と13巻に１例ずつ見られる。

‘나、ㄴ’は母音を重ねる表記が後半の巻に多く、‘너、녀、누’は前半の巻に多い。‘노’は両表記が用いられる巻も多い。全体的には長音符号を用いて表記した例が多いが、母音により若干傾向を異にするため、一定の特徴を明らかにすることは難しい。資料全体について文字の転写方法を検討する必要がある。

次に、流音化と鼻音化の表記である。流音化を発音通りに転写している例は３巻刀部から４巻、６～７巻、９～12巻、16巻、18巻に見られ、24例ある。鼻音化の場合は‘ㅅ＋ㄴ’の例で、17巻火部にのみ14例ある。また、この17巻には、‘熾불니러날 pu-ruiro-naaru’のように発音通りに転写し、‘니러날’の‘ㄴ’脱落を表わす例も見られる。一方、各音節の発音に忠実に転写している例は、流音化の場合、出版期間の前半に出された１～４巻に13例ある。２巻の‘佽날날 narunairu’は18巻では‘猥날날 narurairu’と発音通りに転写しており、他にも同様の例が見られる。鼻音化の例は１～３巻、６巻、13巻、17巻に９例ある。‘ㄱ＋ㄴ’の例は13例で、２～３巻、５巻、８巻、12～13巻、18巻に、‘ㅂ＋ㄴ’は13巻に１例のみある。流音化と鼻音化についても、傾向を異にしはするが、文字通りに転写しているものが多い。そして、最終回に出版された17巻に実際の発音通りに転写したものが多数あることから、初期に出版された巻との違いが現われていることがわかる。

先に述べたように、三年二か月で全十九巻が出版されたが、前半に出版されたのは巻之四までであり、李樹廷の帰国後７か月経っている。この事情と誤記や転写方法の問題に何らかの係わりがあるのか、編者と編集の経緯を調べ、漢字音、朝鮮語と日本語の母音、片仮名遣いの問題等を明らかにすることが必要である。

３．２．単語第一音節の子音‘ㄴ’を‘d、t’で転写している例の検討

単語第一音節の子音‘ㄴ’を‘d’で転写している例は20例、‘t’で転写している例は７例である。

①子音‘ㄴ’を‘d’で転写している例

나 ドー do- 昊날을 do-ruru（十二30ウ）

너 ド do 四넉 doku（四94オ）板널 doru（十三113オ）瀚널불 dorupu-ru（十六117ウ）

ドー do- 汝너 do-（十六113ウ）爾（十七50ウ）擔너를 do-ruru（五43ウ）
拓널널 do-ruriru（十114ウ）廣널을 do-ruru（八63オ）
洪넙을 do-puru（十六114オ）浩（十六114ウ）溥（十六115ウ）
누 ヅ du 壓눌 duru（五44ウ）
ヅー du- 垂누릴 du-riru（五43ウ）寢누울 du-u-ru（六85ウ）
느 ヅ du 於늘 duru（十一41オ）獲늘근잔나비 durukuntusaannaabi-（十八47ウ）
ヅウ duu 晩느즐 duuduru（十二30ウ）
ダ da 感늑길 dakukiru（九111オ）
뉘 ヅー du- 懺뉘우칠 du-iu-tiru（九112ウ）

②子音‘ㄴ’を‘t’で転写している例
나 タ ta 堪［남］tamu（四82オ）　タア taa 潛［남］taagu（十六114ウ）
ㄴ タア taa 狨놀을 taaruru（十八46オ）
너 トー to- 幅너뷔 to-bui（八31ウ）　ノ ト to 侑노을 touru（二75オ）
누 ツター tutu- 殼［누］tutu-（六57オ）
느 ツツウ tutuu 柞느름나무 tutuurumunaa-mu-（十三110ウ）

単語第二音節以下の‘ㄴ’を‘d’で転写している例が3例ある。高母音の‘누’を‘ヅー du-’で転写している‘姉ㅈ누에 matudu-woi（六44ウ）’と非高母音‘나’を‘ダア daa’で転写している‘擯큰슈날 tukunsyu-daaru（十八47オ）’と‘ダー da-’で転写している‘瞳히도나을 haitouda-uru（十二31ウ）’である。また、高母音‘누’を‘シユー syu-’と転写した‘孰［누］syu-（六57オ）’、単語第二音節以下の非高母音‘너’を‘タイ tai’と転写している‘攣쌍너 sagutai（六57オ）’もある。

ところで、同義異字を各々‘d、n’で転写しているが見られる。‘汝너 do-（十六113ウ）’と‘你너 neu（二74オ）’、‘悔뉘우칠 nu-iu-tutiru、懺뉘우칠 du-iu-tiru（九112ウ）’は同じ張に見られる。そして、単語第二音節以下の例であるが、‘姉ㅈ누에 matudu-woi、姐 matunu-woi（六44ウ）’である。また、‘ㄴ’を無声音‘t’で転写している例が7例あり、その中に漢字音を転写したものが三例ある。日本語は清濁を区別することから考えると、これらも‘d’で把握される筈である。しかし、清濁表記が徹底していないこと、『明治字典』に簡単な綴りの誤りがあること、転写方針が一貫していないことからも判断して、清濁表記の不正確さによるものであると考える[5)]。

本稿では『明治字典』の全ての子音について検討してはおらず、また、編者及び編集経緯も詳らかではないため、断言することはむずかしいが、『明治字典』には筆者が以前検討した19世紀の資料で確認した例と一致するものも見られ、朝鮮語‘ㄴ’についての何らかの事実を伝

えるものと考えられる。

宋敏（1986：37－39）は、17世紀の日本資料の研究において、朝鮮語の鼻音‘ㄴ、ㅁ’が、高母音の前で‘b、d’で転写されるのは、朝鮮語の‘ㄴ、ㅁ’に条件的変異音［^{d}n］、［^{b}m］があったことを、日本人が聴覚的に認知していたことが反映されたものであると述べている[6)]。これは19世紀の資料である『明治字典』においても同様であると考える。また、『明治字典』には、単語第一音節の高母音の前の‘ㄴ’を‘d’で転写している例より、‘昊날을 do-ruru、四넉 doku’など、単語第一音節の非高母音の前の‘ㄴ’を‘d’で転写している例が多いが、このような例については、日本語の音声‘d’自体に現われた鼻音性資質の干渉に因るものとしている[7)]。日本語の有声子音‘b、d、z、g’は、通時的に鼻音性を同伴した［^{n}b、^{n}d、^{n}z、^{n}g］、または、［~b、~d、~z、~g］であったと推定されており、また、‘m～b、n～d、n～z、ŋ～g’のような同器官音相互間の通時的変化や共時的、方言的交代が多様に観察される[8)]ことから、非高母音の前の‘ㄴ’までも‘d’で転写する場合があったであろうと述べている。当時の編集担当者が鼻音‘ㄴ’をそのように把握し、‘ㄴ’の転写に‘d’を対応させたのではないかと考える。今後、転写の全容を調べる中で、漢字音との関係、転写方針、転写方法の差異の問題、綴りの正確さの問題なども考慮し、検討して行きたい。

4．19世紀及び20世紀の日本資料に見られる例

『日韓善隣通語』（1880）は『明治字典』の数年前に刊行された会話書であるが、ハングルに片仮名を付している。この資料にも、高母音‘누、느’を‘z’で、非高母音である数詞‘四너、네’を‘d’で転写している例が確認できる。また、19世紀初葉の『朝鮮人見聞書』と19世紀中葉の『朝鮮聞見録』にも、数詞‘四너、네’を‘d、t’で転写している例が確認できる。なお、20世紀初葉の資料の例も参考資料として示す。島井浩[9)]著、『實用日韓會話獨學』（1905）は、釜山で出版された。「會話」部に疑問詞‘누구、누가’を‘du’で転写している例のみ見られる。また、満鮮文興社編、『鮮文（諺文）解語自在』（1929）も単語と会話文例を示したものであるが、‘ㄴ’は全て‘n’で転写している。他の資料で‘d、t’で転写している単語で、『鮮文（諺文）解語自在』にも収録されたものを示す。

(1) 19世紀の資料

『朝鮮聞見録』　너 do 022四百 donniyagu

『朝鮮人見聞書』　네 toi 063四 toi　dei 014 ..年四十四 ..ni nihon dei

『日韓善隣通語』

누 zu 누에，누비（上12앞）누른（下９뒤）누이（下20뒤）　느 zu 능금（下18앞）

눈（上13앞）눈히（下4앞 abc ＜6＞）눈기（下14앞）

너 de - 너근（上27앞）너슈디（上25앞）너자（上25뒤）　dotu 너분（上24앞）
do 넛분즁（上26앞）넝량（上24뒤）　do - 너돈（上24앞）
네 doi 네（上23앞）　doetu 네치손가락（下27앞）

(2) 20世紀の資料

(1)『實用日韓會話獨學』

①‘ㄴ’を‘d’で転写している例（括弧内の数字は頁数である。）

誰レデスカ 누구요 duku-yo（69）誰カ私ヲ呼ブノデスカ 누가날부르오 du-kanaruhuruo（70）誰カ表ニ来マシタ 누가ᄎᆞ자왓소 dukatiyadiyawatuso（75）誰ダカ往テ見ロ 누군지가보와라 dukunzikabowara（75）ソコニ居ノハ誰デスカ 거긔잇는사룸이누구요 kokiinnunsaramidukusiyo（77）君（アナタ）誰デスカ 당신은누구시오 tagusi-nunbu*kusiyo（77）（＊は du の誤りと思われる。）君（アナタ）ノ名ハ何（ナニ）ト仰イマスカ 공에셩명이누구라고ᄒᆞ시오 koogusogumiyo-gidukura koha-siyo（77）其事ヲ誰カ君ニ申マシタカ 그ᄉᆞ정을누가말슴ᄒᆞ엿소 ku-saziyoguurudukamarus umuha-siyotuso（77）誰ガ育テマスカ 누가길너줌닛가 dukakirurotiyutiyo（93）誰デモ人民ニ撰レテ成ノデス 누구던지빅셩이、갈희지요 dukutondibekusogi-、karuhuitiyo（100）誰デモ戦争ニナルト思テイマシタ 누구던지싸홈이될줄알앗소 dukutondisahomi-terudiyuruaratuso（158）

②‘ㄴ’を‘n’で転写している例

誰様（ドナタ）デゴザイマスカ　누구시라ᄒᆞ시요 nukusiraha-siyo（90）
誰ノ家カ 뉘집이냐 nuitibi-niya（134）

(2)『鮮文（諺文）解語自在』

누 妹누의 nui（20）蠶누에 nuwe（56）誰누가 nuka（78）雪눈 nu-n（16）目눈 nun（23）
느 林檎능금 nugukumu（49、54）
너 御前너 newe（29）四ツ넛 noi（2）四尺넉자 noukutiya（25）

『日韓善隣通語』では、高母音の前の例である‘누、느’を‘zu’で転写している。‘zu’という表記はこの資料にのみ見られる。‘du’で転写している音を調べると、‘드’4例と‘저’1例である。そこで、19世紀は音としての‘zu、du’は区別されないことから、‘누、느’を表記する文字として‘zu’を対応させたと考える[10]。朴基永（1999：5）によると、‘넘을、눈물、능금’など、後に鼻音が来る場合は『明治字典』では da 行音で転写していない[11]が、『日韓善隣通語』では、先に見たように、‘눈、능금’は‘zu’、‘넝량’は‘do’で転写している。

『日韓善隣通語』と『實用日韓會話獨學』の編者は、朝鮮語に精通しており、釜山に住んでいたことがある[12]。『日韓善隣通語』、『朝鮮聞見録』、『朝鮮人見聞書』には慶尚道の方言の影響を受けたと考えられる例も確認できる。『鮮文（諺文）解語自在』については編者及び編集経緯を明らかにし、各資料の方言の問題について考察することが必要である。

5.終わりに

これまで、子音‘ㄴ’の片仮名転写の様相を検討し、単語第一音節の‘ㄴ’の転写について考察してきた。鼻音‘ㄴ’が単語第一音節の高母音の前で［^{d}n］で実現するのは、単語第一音節の高母音の前の‘ㄴ’の発話現実に対する日本人の聴覚的認知が明確に反映されていること、高母音以外の音の前の‘ㄴ’を‘d、t、z’で転写している理由は、日本語の‘d’自体が鼻音性を同伴した［^{n}d］であったことに一次的原因があったことと考えられる。まず、編集の経緯と‘ㄴ’以外の子音の片仮名転写を調べて全容を明らかにし、『明治字典』と同時代の日本資料の片仮名転写も参考にして、子音‘ㄴ’の片仮名転写と方言、その他の問題について検討することにより、近代朝鮮語の様相を考察することが今後の課題である。

＜附録＞　朝鮮語の子音‘ㄴ’の片仮名転写

初声‘ㄴ’とそれに続く母音を片仮名で転写した例を示す。用例は訓令式ローマ字表記に従って表わす。漢字音の場合は［　］を付す。漢字の訓とその片仮名転写を同じくする用例は、初めのもののみ表記する。なお、‘ツ、ン、ク’などを拗音表記のように若干小さくして右下に書き、終声や激音の表記に使用しているものや、長音‘アア aa’の後の‘ア a’を小さく右下に付したものもあるが、全体に及ぶものではないので他の文字と同じ大きさで記する。用例の次に巻数、張数を括弧内に示すが、オは表、ウは裏の略号である。

①‘나’＜234例＞

ナ na　余나 na（二74ウ）儂（二77オ）㝵［나］（三21ウ）冞나는소리 nanunso-ri, 㝵 nanunwa*1ri（三32オ）傢나라 nara（二77ウ）乿나라일홈 narairuhomu（一26オ）佉（二74ウ）儜나른할 narunharu（二77ウ）偍나아가기어려을 naakakihowohawouru（二76オ）乿 나아갈 naakaru（一26オ）偷（二76オ）津（三32オ）予나즐 nazuuru（一29オ）低나즐 naturu（二74ウ）櫛나질 natiru（二77ウ）叭나팔 naparu（四81オ）洛［낙］naku（三32オ）侘낙심 홀 nakusimu haru（二75オ）檻난간 nangan, 櫳（十三113ウ）侏난장이 nantiagui（二75オ）僥 nantiagui（二76オ）僬 tintiagui（二77オ）仚날 naru（二73ウ）畓(三11ウ）出（三38ウ）日（十二30オ）佽날뉠 narunairu（二74ウ）猱날뉠 narurai（十八46ウ）儖［남］（二77ウ）南［남］namu（三94オ）喃［남］（四82オ）丙남뎍 namueuku（一11ウ）內［남］nabu（三11ウ）妠［남］（六44ウ）剋낫 natu（三64ウ）晝낫 natu（十二30ウ）楬낫다날 natuta-naru（十三112オ）倬낫타날 natututanaru（二76オ）囊［낭］nagu（四83オ）壤[낭]（五44ウ）娘［낭］（六45オ）曩［낭］（十二31ウ）瀼［낭］（十六117オ）曩낭시 nagusi-（十二31ウ）僅낭피할

nagutuhaiharu（二76オ）伻물나단 murunatan, 伻ㅅ오나을 saonauru, 伻클나인이란 tukurunain.iran（二74オ）偉놀날 norunaru（二76ウ）啐（四82オ）噩（四82ウ）仳써날 tutuwonaru（二74オ）儷 duwounaru（二78オ）翳 to-naru（四82ウ）夆만날 mannaru（五49ウ）値맛날 matunaru（二75ウ）傳못날 muutunaru, 傷 mutunaru（二76オ）斐문ㅊ날 mu-ntiyainaru 媥（十一23ウ）夙부등깃날 putu-gukitunaru（三35オ）丕빗날 pitunaru（一11ウ）傛（二76ウ）傃 사오날 saonaru（二76オ）沸소사날 sousaanaru（十六113ウ）娩아기날 aginaru（六45オ）爩연긔날 iyonguinaru（十七44ウ）仍 외나무다리 oinamuutari（二74オ）礿의나모ㄷ리 woinamoutari（九24ウ）雙빗날 pitunaru（三11ウ）暀（十二31オ）俊쎄여날 baiiyaunaru, 俤（二76オ）僊（二76ウ）巽동남방 togunamubagu（八8オ）僭참남　할 tuti yamunamu haru（二77オ）儗참남할（二77ウ）冪용남홀 yogunabuharu（三21ウ）函（三38ウ）朗며낭홀 megunaguharu（十二41ウ）幃향낭 hi*2 nagu（八31ウ）

ラ ra　咢돌날 no*3ruraru（四81ウ）

ナア naa　我나 naa（十12ウ）拏［나］（十114ウ）儸［나］（九112ウ）挪［나］（十114ウ）捺［나］（十115オ）獩나라일음 naaraai-rumu（十八47オ）滹나아갈 naaaakaaru（十六116オ）愈나을 naauru（九111オ）搦［낙］naaku（十116オ）洛낙슈 naakusiyu-（十六114オ）愎［난］naan（九111オ）戀［난］（九112ウ）煖［난］（十七43ウ）拚［날］naaru（十114ウ）播날닐　naari-ru（十116ウ）滕날닐 naariru（十六116オ）犺감은잔나비 kaamuntusaannaabi-（十八46オ）湳［남］（十六115ウ）搦［납］naabu（十116オ）玃늘근잔나비 durukuntusaannaabi-（十八47ウ）犺ㅅ으나울 saaunaau-ru 狟, 狨（十八46オ）猛（十八46ウ）獰ㅅ으나을 saaunaauru 獷（十八47オ）湅소나기 sounaaki（十六114ウ）淫음난홀 umnaanharu（十六115オ）狙잔나비 tusaannaabi（十八46オ）渰그름이니러날 kurumiiro-naaru（十六115オ）瀚（十六116オ）犮돌아날 taaraanaaru（十八46オ）漿뇸이날 daminaaru　（十六116オ）熾불니러날 pu-ruiro-naaru（十七44オ）炅빗날 pinnaaru（十七42ウ）焯, 煇, 煌, 熙, 煜, 焆, 煥, 熒（十七43ウ）熠, 熲（十七44オ）燿, 爍, 爍（十七44ウ）沈소사날 sousanaaru（十六113オ）湢, 湧（十六115ウ）涌 sousaanaaru 涫（十六114ウ）浴（十六115オ）澤（十六116オ）濆（十六117オ）瀵 sonsaanaaru（十六117ウ）廊힝낭 haigunaagu（八62オ）

ラア raa　戄놀날 noururaaru（九112ウ）

ナー na-　卬나 na-（三101ウ）咱나（四81ウ）娜［나］（六45オ）朕나（十二41ウ）倻[나]（二75オ）椽［나］（十三113オ）旅나그네 na-ku-noi（十一41オ）國나라 na-ra-（四94オ）囿나리동산 na-ra-*4 togusan（四94オ）屧나막신 na-makusin（七26ウ）嬴나무 na-mu-（六46オ）木（十三110オ）杪, 桉, 桹（十三111オ）楯, 棫, 栟, 椇, 棲(十三111ウ）楀, 楅, 楝, 楥, 榕, 樧（十三112オ）榿（十三112ウ）樹（十三113オ）櫟, 櫧, 櫞（十三113ウ）欒（十三114オ）稟나무마를 na-mu-ma-ruru（十三112ウ）椧나무무 na-mu-（十三111ウ）商나무블 na-mu-puru（四82オ）槃나무발（十三113ウ）屐나무신 na-mu-sin（七26オ）橇（十三113オ）

欙（十三114オ）剩나물 na-muru（三64ウ）圃나물썻 na-murupatu（四94オ）暹나아갈 na-a-karu（十二31オ）唵나알 na-aru（四82オ）嵐나을이 na-o-ri-（七60オ）晌나제 na-zei（十二30ウ）殘남을 na-muru（十四24オ）價가린나무 ka-raina-mu-（十三113ウ）娼간나희 kanna-hui（六45オ）梫계수나무 ke-siyu-na-mu-（十三111ウ）楺구분나무 kubunna-mu-（十三112オ）梓노나무 nouna-mu-（十三111オ）楡느름나무 nuurumuna-mu-，楮닥나무 takuna-mu- 穀（十三112オ）唐당나라 taguna-ra（四82オ）椿동박나무 togupakuna-mu-（十三112オ）槀생나무 poguna-mu-，檳생나무실 poguna-mu-siru（十三113ウ）甚사으나을 saunauru（九110ウ）奴ㅅ나희죵 sa-na-huitiyogu（六44オ）樑ㅅ오나울 sawouna-uru（十三111オ）楛ㅅ우나을 sa-u-na-uru（十三112オ）暴ㅅ으나을 sauna-uru（十二31オ）椒섭나무 sobuna-mu-（十三111ウ）宋송나라 soguna-ra-（六85オ）榛옷나무 wotuna-mu-（十三112ウ）吳은나라 onna-ra（四81ウ）杉잇자[*5]나무 ituka-na-mu-（十三110オ）楸ㅈ근나무 tiya-kunna-mu-（十三112オ）檜젓나무 tusotuna-mu-（十三113ウ）歷지날 tiina-aru（十四24オ）晉진나라 tinna-ra（十二30ウ）梗춤나무 tiyamuna-mu-（十三112オ）樟（十三113オ）欅（十三114オ）柏측박나무 tiyukupaakuna-mu-（十三110ウ）棻향나무 hiyaguna-mu-，檗황벽피나무 huwagubiyokupi-na-mu-（十三113ウ）槐회화나무 hoihuwa-na-mu-（十三112ウ）櫰（十三113ウ）

ナアー naa- 吾나 naa-（四81ウ）栲나무일홈 naa-mu-i-rumu，桂계슈나무 ke-siyu-naa-mu-，桐머귀나무 mo-ku-inaa-mu-（十三111オ）斤날 naa-ru（十一31オ）揚날닐 naa-riru（十115ウ）枏남목 naa-mu-moku（十三110ウ）

ダア daa 擯큰슈날 tukunsyu-daaru（十八47オ）

ダー da- 曈히도나올 haitouda-uru（十二31ウ）

ドー do- 昊날을 do-ruru（十二30ウ）

タ ta 堪［남］tamu（四82オ）

タア taa 湝［남］taagu（十六114ウ）

②'ㄴ'＜22例＞

ナ na 分ㄴ날 nanaru，刃ㄴ naru（三64オ）勇ㄴ낼 narurairu（三64ウ）天하ㄴ ha-naru（五70オ）

ナア naa 津ㄴ루 naaru-（十六114オ）牉ㄴ흘 naanuru（十七58オ）猖ㄴ닐naarurairu，猾잔ㄴ비 saannaabi-，猴（十八46ウ）猨 tusaannaabi-（十八46ウ）獼（十八47オ）捌ㄴ흘 naanuru（十115オ）

ナー na- 判ㄴ날 na-naru（三64オ）卑ㄴ즐 na-zuru（三94オ）塌（五43ウ）庫（八62ウ）婦며ㄴ리 me-na-ri-（六45オ）媳（六45ウ）嬪（六46オ）婚며ㄴ리집 me-na-ri-tibu（六45オ）

ノー no- 攸ㄴ을 no-nuru（十一21オ）析（十三110ウ）

タ taa 狨ㄴ을 taaruru（十八46オ）

③'냐'＜1例＞ ニヤ niya 孃［냥］niyagu（六46ウ）

④ '너' <41例>

ノヲ nowo　佹가쥭너그러울 katiyuukunuwokuruwouru（二75オ）儆헤넘느러질 howoinowomu nuruwoutiru（二77オ）

ノヲウ nowou　儆너그럴 nowoukuruwouru（二77オ）優넉넉 nowoukunowouku（二77ウ）

ヌヲ nuwo　俱넉넉헐 nuwokunuwokuharu（二76ウ）偲셔로일너쥴 siyauroirunuwotiyuuru（二76ウ）

ノ no　博널 noru（三94オ）搏（十94オ）

ロ ro　峒굴넝 ku-rurogu（七59ウ）

ノー no-　寬너글어을 no-ku-ra-uru（六85ウ）犯너물 no-mu-ru（十六113オ）漲（十六116ウ）瀁널을 no-ruru（十六117ウ）澒넘을 no-muru（十六114ウ）溢，溢（十六115ウ）濫（十六117オ）瀲넘을（十六117ウ）圮무너질 mu-no-tiru（五43ウ）壞（五44ウ）漼（十六116ウ）涉건널 ko-nno-ru（十六114ウ）渡（十六115オ）濟（十六117オ）

ロー ro-　斑얼넉 o-ruro-ku，斕（十一23ウ）

ネウ neu　你너 neu（二74オ）

イ i　惘［넉］iku（九111オ）麥넘을 imuru（五51ウ）

ド do　四넉 doku（四94オ）板널 doru（十三113オ）瀚널불 dorupu-ru（十六117ウ）

ドー do-　汝너 do-（十六113ウ）爾（十七50ウ）擔너를 do-ruru（五43ウ）拓널닐 do-ruriru（十114ウ）廣널을 do-ruru（八63オ）洪넙을 do-puru（十六114オ）浩（十六114ウ）溥（十六115ウ）

トー to-　幅너뷔 to-bui（八31ウ）

⑤ '녀' <35例>

ニヤウ niyau　帑［녀］niyau（八31オ）忍［년］niyaun，濂［념］niyaumu（三32オ）令［녕］niyaugu（二74オ）儜［녕］niyaugu（二77ウ）傳용녈홀 iyoguniyauruharu（二76オ）

ニヨ niyo　年［년］niyon（八37ウ）嚀［녕］niyogu（四82ウ）南남넉 namuniyoku（三94オ）東동넉 toguniyoku（十三110オ）夷동녁되 toguniyokuito[*6]（五70オ）적녁 tiyo-[*7]niyoku（五55ウ）曆책넉 tiyakuniyoku（十二31ウ）叮뎡녕 tiyoguniyogu（四81オ）

ニヨウ niyou　釘［녕］niyou（一28オ）

ニヨー niyo-　女［녀］niyo-（六44オ）挐［녀］（十114ウ）姆녀스승 niyo-suusugu（六44ウ）尼녀즁 niyo-diyugu（七26オ）怒［녁］niyo-ku（九110ウ）樓종녀 tusoguniyo-（十三112オ）櫚（十三113ウ）榻춘녀 tiyu-niyo-（十三111ウ）狁북녁되 pu-guniyo-kututoi，狄（十八46オ）玁북녁되 pu-kuniyo-kutoi（十八47オ）北북녁 puguniyogu（三83ウ）廉쳥념 tiyo-guniyo-mu（八62オ）

エウ eu　侶항널 hagueuru（二74ウ）

イヤウ iyau　見달녀들 taruiyauduru（三21ウ）

イヨ iyo　敜［념］iyobu（十一21オ）

イヨー iyo-　熱［녁］iyo-ru（十七44オ）涊［년］iyo-n（十六114ウ）捏［녈］iyo-ru, 捻［념］iyo-bu（十115オ）濘［녕］iyo-gu（十六117オ）

⑥‘노’＜83例＞

ノ no　傍［노］no（二77オ）栝노쇼나무 noseuna-mu-（十三110ウ）邵노플 notupuru（三101ウ）慍노ᄒᆞᆯ noharu（九110オ）侖논 non（二75オ）啐놀날 norunaru（四82オ）噩（四82ウ）玃놀닐 norurai（十八47オ）籯놉고멀 nobukomowouru（三25オ）傀놉흘 nobuhuru（二76ウ）僑놉흘 nobuhuru（二77オ）塏 nobuhuru 塽（五43ウ）尊（七７オ）岉놉흘 nobupuru 岌, 岏, 岦, 崩（七59オ）峉, 峊, 峻, 崆, 崛（七59ウ）崟, 嵂, 嵎, 嵔, 巢, 嶅（七60オ）嶈, 嶒, 嶕, 嶚, 隓, 嶠, 嶪, 巀, 巘, 巋, 巍（七60ウ）岧놉흘 notupuru（七59オ）兀놉흘 nopuhuru（二78ウ）喬놉플 nobupuru（四82オ）儂［농］nogu（二77オ）濃［농］（十六117オ）僗동노ᄒᆞᆯ togunoharu（二77オ）詤술싼노을 suuruzannouru（三25オ）亶진실노 tinsiruno（一38ウ）侵침노ᄒᆞᆯ tutimunoharu（二75オ）佻ᄒᆞᆯ노단일 harunotaniru（二74ウ）儸ᄒᆞᆯ노설 horunosowouru（二77ウ）濃무루녹을 mu-ru-noukuru（十六117オ）傒시골놈밀 sikorunomumairu（二76ウ）

ノウ nou　呶［노］nou（四81ウ）拏［노］（六57オ）猺［노］（七59ウ）憹［노］（九112オ）溺［노］（十六115オ）猱［노］（十八46ウ）獿, 玃, 玃［노］（十八47オ）梓노나무 nouna-mu-（十三111オ）敖노닐 nouniru（十一21オ）囉노릐 nourai（四83オ）獠노로 nourou（十八47オ）倅노슉ᄒᆞᆯ nousuukuharu（二75オ）嘹노ᄒᆞᆯ nouharu（四82ウ）惕노흘 nouhuru（九111オ）懮놀날 noururaaru（九112ウ）愕놀닐 nourairu（九111オ）枚형노흘 hiyogunouhuru（十三110ウ）

ノー no-　俶［노］no-（二74オ）努［노］（三76オ）勞［노］（三76ウ）奴［노］（六44オ）嫋［노］（六45ウ）帑［노］（八31オ）噴노릐 no-rai（四82オ）劫노략ᄒᆞᆯ no-riyakuharu（三76ウ）放노흘 no-huru（十一21オ）歈놀에 no-roi 歌（十四16ウ）

ラウ rau　夰흘 horurau（六85オ）

ト to　侑노을 touru（二75オ）

⑦‘뇨’＜２例＞　　ニヨー niyo-　嬲［뇨］niyo-（六46オ）淖［뇨］（十六115オ）

⑧‘누’＜29例＞

ヌ nu　嫩눈 nun（六45ウ）濱눈물 nunmuru, 嶊눈싸일 nunzairu（三32オ）乜눈흘보기 nunhuru boki（一26オ）

ヌウ nuu　僂［누］nuu（二77オ）偃누울 nuuuru（二76オ）僂, 儽（二78オ）完눈깁흘 nuun kibuhuru（三25オ）

ヌー nu-　獳［누］（十八47オ）熉 nu-riyu-（十七43ウ）熡누류 nu-ru-（十七44オ）妹아릐누에 a-rainu-woi, 姐 matunu-woi（六44ウ）按누를 nu-ruru（十114ウ）泗눈물 nu-nmu-ru（十六

114オ）汎눈물이써러질 nu-nmu-rido-rotiru（十六113ウ）洏（十六114オ）涕눈물 nu-nmu-ru（十六114ウ）淚（十六115オ）吶［눌］nu-ru（四81ウ）

ヅ du　壓눌 duru（五44ウ）

ヅー du-　垂누릴 du-riru（五43ウ）寢누울 du-u-ru（六85ウ）姉못누에 matudu-woi（六44ウ）

ツツー tutu-　彀［누］tutu-（六57オ）

シュー syu-　孰［누］syu-（六57オ）

⑨‘뉴’<3例>

ニヨー niyo-　椌풍뉴 puguniyo-（十三111ウ）

イユー iyu-　扭［뉴］iyu-（十114オ）狃［뉴］（十八46オ）

⑩‘느’<25例>

ヌ nu　凋느른홀 nurunharu（三32オ）侵느스할 nusutuharu（二76オ）儴느즈러질 nuzuruwoutiru（二78オ）仂［늑］nuku（一73ウ）於늘 nuru（十114オ）凌［능］nugu（三32オ）檎능금 nugugumu（十三113オ）儆헤넘느러질 howoinowomunuruwoutiru（二77オ）匣밥설다는 papusiyaurutanun（三25オ）佛붓쳐클 틀다ᄒᆞ는 putututiyau tukuru tuturutahanun（二74ウ）仍흐르는별 hurununpeuru（二74オ）姸ㄱ늘 ka-nuru（六44オ）庥그늘 kunuru（八62ウ）樾그늘 kuwanuru（十三113オ）曀그늘질 kuunurutiru（十二31ウ）涼셔늘 siyauwo*8ru（三32オ）乾하늘 hanuru（一26オ）晷그늘 kuuwo*9ru（十二31オ）

ヌウ nuu　枌느름나무 nuurumunaa-mu-（十三110ウ）

ノ no　凸늅흘 nobuhuru（三38ウ）

ヅ du　於늘 duru（十一41オ）玃늘근잔나비 durukuntusaannaabi-（十八47ウ）

ヅウ duu　晩느즐 duuduru（十二30ウ）

ツツウ tutuu　柞느름나무 tutuurumunaa-mu-（十三110ウ）

ダ da　感늑길 dakukiru（九111オ）

⑪‘니’<52例>

ニ ni　鼾［니］ni（三21ウ）匿［닉］niku（三89ウ）昵［닐］niru（十二30ウ）暱［닐］（十二31オ）帝님금 nimugumu（八31オ）任다르니 taruni，他（二74オ）不아니 ani（一11ウ）否아닐 aniru（四81ウ）弗 aaniru（八84ウ）未 a-niru（十三110オ）倖항복지아니 홀 hagupoku tianiharu（二74ウ）傭（二77ウ）備곱지아니할 koputianiharu（二76ウ）俐영니 홀 iyauguni haru，徇돌닐 toruniru（二75オ）奚상닐 siyaguniru（三17オ）

ニー ni-　呢［니］ni-（四81ウ）涅［니］（五43ウ）尼［니］（七26オ）旎［니］（十一23ウ）柅［니］（十三110ウ）嗣니을 ni-uru，嗒니즐 ni-duru（四82ウ）利니홀 ni-haru（三64オ）帑주머니 tu-mo-ni-（八31オ）囊주모니 tu-mu-ni-（四83オ）

イ i　慣니글 ikuru（九111ウ）熟（十七44オ）悗니즐 izuru（九110ウ）匿［닉］iku（三89ウ）懼［닐］iru（九111ウ）底닐을 iruru（八62ウ）渰그름이니러날 kurumiiro-naaru（十六115オ）

瀚（十六116オ）熾불니러날 pu-ruiro-naaru（十七44オ）牙숑곳니 siyogukon.i（十七60オ）慘힘니블 himuiguru（九111ウ）

リ ri　拓녈닐 do-ruriru（十114ウ）晅말닐 maruriru（十二30ウ）暵（十二31オ）曬말닐 maaru riru（十二31ウ）卻믈닐 mururiru（三101ウ）滕날닐 naariru（十六116オ）

イー i-　泥［니］i-（十六114オ）瀾［니］（十六117オ）承니을 i-uru（十114オ）慽닐을 i-ruru（十117ウ）氐（十五26ウ）洊（十六114オ）

リー ri-　斥물니칠 mururi-tiru（十一31オ）播날닐 naari-ru（十116ウ）

⑫ '내' <24例>

ナイ nai　佴［내］nai　佴[내]（二74オ）內［내］（三11ウ）川［내］（七61ウ）皆［내］（十二31オ）柰［내］（十三110ウ）檉내버들 naipo-tuturu（十三113オ）殠내얌새 naiyamusai（十四24オ）猲냄시 naimusai（十八46ウ）焄향내 hiyagunai（十七43オ）旻들낼 turunairu（四81オ）媵보낼 ponairu（六45ウ）歜분낼 pu-nnairu（十四16ウ）吒셩낼 siyogunairu，昫숨낼 su-munairu，咐 siyumunairu（四81ウ）

ライ rai　勇놀낼 narurairu（三76ウ）啕둘낼 tururairu（四82オ）

ナアイ naai　河내 naai（十六113ウ）溪시내 si-naai（十六115ウ）攝겁낼 ko-bunaairu，懠셩낼 so-gunaairu，憘（九112オ）

ナヤ naya　廼냄시 nayamusai（八62ウ）

⑬ '니' <27例>

ナイ nai　烟니 nai（十七43オ）煙（十七43ウ）來［니］nai（二74ウ）儺［니］（二78オ）嗅니마틀 naima-turu（四82オ）冷［닝］naigu（三32オ）泠［닝］（十六114オ）佽날닐 narunairu（二74ウ）兌달닐 tarunairu（三8ウ）呶들닐 turunairu（四81ウ）僠모양닐 moyagunairu（二76オ）悱분닐 punnairu（九110ウ）憤분닐 pu-nnairu（九111ウ）傴성닐suwogunairu（二76オ）嗔셩닐 sogunairu（四82ウ）狋셩닐 so-gunairu（十八46オ）孺（十八47オ）僦세닐 senairu（二77オ）噓숨닐 siyumunairu（四82ウ）歊숨닐 sumunairu（十四16ウ）谷입김닐 ibukimunairu（三17オ）

ライ rai　猝날닐 narurairu，猖놀닐 naarurairu（十八46ウ）獿놀닐 norurairu（十八47オ）嚾둘닐 tururairu（四83オ）

タイ tai　攣쌍니 sagutai（六57オ）

ナ na　撊분닐 pu-nnaru（十117ウ）

⑭ '뉘' <3例>

ヌーイ nu-i　悔뉘우칠 nu-iu-tutiru（九112ウ）

ヌイ nui　弦살은뉘 saarounui（八84ウ）

ヅー tudu-　懺뉘우칠 du-iu-tiru（九112ウ）

⑮ '뇌' <9例>

ノイ noi　惱［뇌］noi（九110ウ）傯，侔［뇌］（二75オ）儡（二77ウ）儽（二78オ）瀨［뇌］（三32ウ）挼（十114ウ）捼（十115オ）弩쇠뇌 soinoi（八84ウ）

⑯ ‘네’ <5例>

ノイ noi　旅나그네 na-ku-noi（十一41オ）

ロイ roi　喧둘넬 tururoiru（四82オ）嘈들넬 tururoiru（四82ウ）姑（六44ウ）

ネ ne　囝아희굴네 ahuikuurune（三21ウ）

⑰ ‘네’ <2例>

ニヱー niwe-　昔네 niwe-（十一30ウ）

ネー ne-　常샹네 siyagune-（八31ウ）

注

1）佐野（2001）参照

2）『明治字典』の片仮名転写については、鄭光（1982）の重母音と子音‘ㅅ、ㅈ、ㅊ’、朴基永（1999）の母音‘ㅓ、ㅕ’と重母音‘ㅐ、ㅣ、ㅔ’、濃音、激音についての研究がある。単語第一音節の‘ㄴ’を‘d、t’で、‘ㅁ’を‘b、h’で転写した例についての研究は、前間（1909）、安田（1964）、宋敏（1986）、李基文（1988）、李康民（1993）、鄭光（1996）、佐野（1996、2001）、岸田（1999）参照。

3）『明治字典』の成立については鄭光(1982)参照。

4）『東京外国語学校一覧明治十六、十七年』と『同 明治十七、十八年』の「長教諭教員及属員」の項目に教員として李樹廷の名前が確認できる。また、東京外国語学校編、『東京外国語学校沿革』（昭和七年）の第五章「東京外国語学校設立後の沿革」附三「明治六年より同十七年に至る職員一覧」の外国人教師の項により、就職年月が明治十六年八月であることがわかる。

5）宋敏（1986：38)、土井忠生・森田武（1995）参照。

6）李秉根（1980）参照。

7）志部（1988：12)、前間（1909：10)、安田（1964：25-26)、金美善（1998：142-143）参照。

8）宋敏（1986：38）

9）桜井（1941：230）によると、対馬旧厳原の藩士で、1884年以来釜山に居住し、釜山の語学校の韓語速成科に学び、後に、韓語教員及び尋常小学校の教員になった。山田（1998：74-75）参照。

10）佐野（2001：88）参照。

11）鄭光（1996）で『物名』には‘능금’が‘dokugumu’と記録されていることを指摘している。

12）『日韓善隣通語』については五十嵐（1999：379）参照。

参考文献

土井忠生・森田武（1995）『新訂国語史要説』、修文館.

五十嵐孔一（1999）「寶迫繁勝（1880)、韓語入門과『日韓善隣通語』（書評)、「形態論」1－2.

李基文（1978）『(改訂版）國語史概說』、搭出版社.

_____（1988）「陰德記의 高麗詞之事에 대하여」「國語學」17、3－32. 搭出版社.

岸田文隆（1999）「漂流民の伝えた朝鮮語　—島根県高見家文書『朝鮮人見聞書』について—」富山大学人文学部紀要」30.

_____（2000）「표류민이 전하는 한국어」「21세기 국어학의 과제」、도서출판월인.

金美善（1998）「大阪市 生野區 定住 在日 코리안 一世의 日本語 運用」、국제고려학 제4호、국제고려학회.

前間恭作（1909／1974）韓語通.［京都大学文学部国語国文学研究室編、京都大学国文学会に収録］.
朴基永（1999）『明治字典』의 한국어 표기에 대하여 —片假名전사표기를 중심으로—、第161回朝鮮語研究會發表資料.
佐野三枝子（1996）「17・18世紀 日本 資料에 나타난 韓國語 研究」서울大學校大學院碩士學位論文.
_____（2001）「日本 資料에 나타난 近代 韓國語의 研究」서울大學校大學院博士學位論文.
宋敏（1986）『前期 近代國語 音韻論 研究』、國語學叢書 8　搭出版社.
志部昭平（1988）「陰徳記 高麗詞之事について—文禄慶長の役における仮名書き朝鮮語資料—」「朝鮮学報」128、1－102.
鄭光（1982）「『明治字典』의 國語語彙에 대하여、—19世紀 國語 資料를 위하여—」、「德成女子大学校 論文集」11.
安田章（1964）全一道人の研究、京都大学文学部国語国文学研究室編、京都大学国文学会.